（別紙4）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】(2ユニット共通)

事業所番号	2791400258		
法人名	株式会社リビングプラットフォームケア		
事業所名	ライブラリ箕面Ⅰ		
所在地	大阪府箕面市桜4-9-13		
自己評価作成日	令和6年1月10日	評価結果市町村受理日	令和6年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町２－１－８　FGビル大阪　4階
訪問調査日	令和6年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

必要な時に必要なサポートを誰もが受けられる。お互いを尊重して働き、自分の可能性に挑んでいける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

介護事業・障害者支援事業・保育事業を展開している㈱リビングプラットフォームケアを事業主体とする当事業所は2020年10月に開設され、3年4ヶ月を経ている。この間に施設長・管理者の交代が頻回にあったが旧運営事業所の経験値豊富な職員を中心に、これまで培ってきた地域との繋がりを維持しながら「利用者と家族の想いを大切に」を念頭に真摯に取り組んでいる。コロナ渦中での事業所の設立で、地域の行事の参加や交流が制限されているが、感染状況を見極めながら、地域の中の一員としての確立を目指している。個々の有する能力を引き出し、各々役割を担って生活に充実感と満足感が得られるよう支援し、体操や手作りのレクリエーション・ゲームを取り入れ、認知症の緩和と悪化防止に努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
		○	4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示しいつでも職員の目の届くところに置いている。	法人理念と「持続可能な社会制度を構築する」の方針内容を記したものを事務所に掲げ、意識付けを図っている。又「人間としての尊厳を守り利用者の生命・生活・人生の支援を寄り添いながら行う」を事業所の取り組み姿勢として実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ中の移転のため全く地域のつながりがないため、今後地域との交流をして行きたい。	新事業所移転がコロナ渦中で、地域との交流が困難となっているが、散歩時に地域の人と挨拶を交わし、徐々に交流の機会が広がってきている。旧事業所でフラダンスやオカリナ演奏のボランティアを受け入れていたが現在は中止している。今後運営推進会議の実質開催を通して、地域の交流の幅を広げたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ中の移転のため全く地域のつながりがないため、今後地域の人に向けて活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが治まりかけ実施予定がスタッフのコロナ感染、利用者様、スタッフのインフルエンザとなかなか実施できていない。	年6回の運営推進会議はすべて書面報告で、事業所の状況、イベント、レクリエーション、研修、事故・ヒヤリハット報告を行っている。運営推進会議構成メンバーの意見・要望・助言の記述が無く、メンバーからの意見収集のあり方が課題となっている。	地域の代表者や認知症知見者による意見・助言を得て、ケアサービスの向上に繋げる大切な運営推進会議の実質開催に向けて、幅広い構成メンバーの出席を推し進めると共に、議事録の開示と関係者全員への送付に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	箕面市広域福祉課と連携をとり、情報交換に努めている。	市の広域福祉課の窓口や電話で事業所の取り組みや現状を報告し、情報・アドバイス・指導を受けて協力関係を築いている。生活福祉課には公的扶助受給者の諸々の書類手続きを行い連携を取り合っている。6施設のグループホーム連絡会（2ヶ月に1回）に参加して同業者間で情報交換を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的に行わないことで統一されている。	身体拘束適正化指針文書を整え、研修（年2回）委員会（3ヶ月に1度）を通して身体拘束の内容について理解を深めている。研修後は職員全員がレポートを提出し、習熟度を振り返っている。利用者全員の人感センサー使用には家族に説明と同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	展示物やミーティングなどで虐待に関する意識を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様各人の経済状況や支援状況を把握し、包括支援センターや福祉事務所と話し合う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明するとともに不明点や質問に対して適宜対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を放置せずできるだけ現場と協力し反映させるよう努めている。	利用者には日頃のケアで意見を聞き取り、家族には訪問時や電話で傾聴し、要望や意見を引き出す機会を作っている。見取り対応ケアの際、家族から心臓が弱いから熱いお湯の使用を避けて欲しい等の要望に応え、看取り後家族からこちらで終えて良かったと感謝されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との日頃のコミュニケーションの中で情報収集を行うようにしている。	月に1回の職員会議で活発な意見発信があり、又、日々のケアでの気づきや提案はリーダーが聴き取り、改善できる事案は即取り入れ、検討課題は全体で話し合っている。自身でのハミガキが困難になった人には、口腔スポンジで対応し、食事形態のミキサー食・ペーストタイプのおかず発注かハンドミキサーを購入するかの意見を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り職員個々の努力、勤務状況を把握し頑張りに応えるべく努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務上の悩みに答え、場合によっては面談を行いアドバイスを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	箕面市グループホーム連絡会でお互い話し合い、情報交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ち、習慣を探りながら、安心確保に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の希望や意向については極力耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	楽しく過ごして頂くために様々な方法を繰り返している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のニーズ、訴えを聴くにあたり、相手の状況や思いを胸に共感しあえる関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族様の気持ち、状況を考慮し、意見を聞いて対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や知り合いの面会は家族様に確認した上で推奨している。	友人・知人の訪問があったが、利用者の記憶が薄れて会話が続かず、疎遠となっている。家族の訪問は頻度の差はあるが、約半数の人の家族の訪問がある。家族同行で外食・馴染みの美容院・買い物に出かける人もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどでお互いを結びつけるコミュニケーションつくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様の求めに応じ、相談に対応するようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介助や誘導には必ずご本人に確認するところからはじめている。	入居時に作成したフェイスシート（住居環境・健康状態・社会との関わり方・生活における希望等）を参考に、今の暮らし方の希望や、やりたい事・嫌な事等を日々のケアで、話しかけと問い掛けで掴んでいる。把握した内容は電子機器に記入し、全体で共有して計画作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの情報を尊重したケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	立位、歩行、食事などのADLや、昼夜逆転など適宜対応に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、ケアプランは必ず家族様に確認頂き意見を求めている。	毎月のカンファレンスと3ヶ月毎のモニタリングで課題分析し、生活記録・ケース記録・診療情報提供書等を参考にすると共に、計画作成前に利用者・家族の要望を聴き取り、関係者全体で検討した計画作成を行っている。短期6ヶ月・長期1年としているが心身状態変化時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に基づいたモニタリングを行い、今後のケア実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方々の状況に合わせた新たな試みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	箕面市グループホーム連絡会での意見交換や他事業所との交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様主体でその方に合った診療医の選択を行うようにしている。	利用者・家族等は、入居時に自由意思により従来のかかりつけ医か事業所の協力医を選択しているが、現在は全員が協力医(内科)の訪問診療を月２回受診し、24時間のオンコール体制も敷いている。希望者による歯の治療や口腔ケアも、定期的に訪問診療を受診している。事業所に看護師を配置し、週２回利用者の健康管理に当たっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な内容はまず看護師に報告、相談し指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会時の情報収集、退院カンファレンス参加などを基本的におこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護を実地しており、医師、看護師、介護員協力のもと、方針に従って行っている。	利用者・家族等は、入居時に重度化の場合の事業所対応（看取りか療養型病院へ転院）につき説明を受け、重度化の際には、医師が家族に状況を説明のうえ、見取りを希望すれば都度同意書を交わし、看取り介護に入る。職員の看取り研修を行い、見取り後のカンファレンスや家族の感謝の言葉に職員が癒されている。12月に2名を見送った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	口頭での場面想定による指示指導を行い、緊急時に対応できるように教育している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練によりシュミレーションし、避難口、消化器の位置、避難経路について各自把握している。	最大懸念の災害は地震とのことであるが、築3年強の鉄骨耐震構造で有り特段の心配はないが、共用部分や居室の家具等の固定は要確認である。12月予定の避難訓練が施設長兼管理者の突然の退職で流れ、2月に延期となった。緊急連絡網を整備し、有事には近住の職員が駆けつける体制を取っている。水・米・食品ほか1週間程度の備蓄がある。	消防法により介護施設の避難訓練（年2回）が義務付けられており、毎年確実に規定通り実施することを望む。新築移転後に消防署の立ち合いが無いので、次回は立ち合いを要請し、車いす利用者の避難方法等を含めアドバイスを得ることを期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員お互いが気付いた点を意見できる風土をこころがけ、各自が努めている。	職員は、利用者の尊厳やプライバシー保護に配慮した介護に努めている。不都合な対応があれば、リーダーや職員がその場でそれとなく注意を促している。浴室やトイレは引き戸を閉めて廊下から他人の目を遮断するよう対応している。居室は利用者の様態を観察するため少し空けている場合もあるが、居室に入る時にはノックや声掛けを励行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本位を念頭に、声掛けからしていくよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調面には特に注意し、場合によっては臥床を促す。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その場に応じた対応を心がけ、利用者様の意見を聞きながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方のレベルに合わせて盛り付け・配膳・下膳・洗い物・準備などをしてもらっている。	給食会社から調理済み食材等が搬入され、各ユニットの台所で職員が交代で最終工程を行っている。利用者が、盛り付けや全員に配膳する姿が見られた。季節の特別行事食も給食会社が用意するので、利用者や職員はおやつにスイートポテト等を一緒に手作りしている。食事介助が必要な利用者には早めに食事を始め完食する工夫をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量のチェックを行いながら栄養摂取には留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ナイトケア時には特に苔磨きを含め、歯ブラシの選択も行いながら、ご本人に合わせた口腔ケアを実地している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンと本人の尿意、訴えに対応している。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し可能な限りトイレでの排泄を支援している。日中のおむつ利用者は2名、布パンツ利用者は無く、残りはリハビリパンツを着用している。夜間は、夜勤者が利用者一人ひとりに対応したおむつ・パッド等の交換をしている。センサー反応があればトイレ誘導やポータブルトイレを使用したりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤のみに頼らず、毎日の体操やヨーグルト、牛乳など消化を促すものを試みている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スケジュールは決めるが、ご本人の意思を尊重し、延期や清拭などで臨機応変に行っている。	利用者は週2回入浴しているが、湯船を跨げない利用者は機械浴を利用している。入浴を少しでも楽しむため、入浴剤や袋詰めの実物のゆずを浮かべ季節感を味わってもらっている。職員に上手に誘導され、素直に入浴しさっぱりした気分になってもらうが、どうしても嫌がる場合には日時や担当を変えたり、清拭を行う場合もある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の就寝時間に合わせた就寝介助の順番など工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の重要性、重大性を確認し、与薬、体調変化に		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活レクリエーションとして、洗濯たたみなど各々できることを行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候を考慮した上で、散歩やお買い物など実施している。	現在は、職員と近くのドラッグストアへの買い物や公園への散歩に出かけている。また、家族同行で馴染みの喫茶店・美容室や買い物・外食へも出かている。新型コロナやインフルエンザが収まれば、ボランティア等の手を借り重度の利用者も車いすでの散歩や買い物などに出かけられ、以前の生活を取り戻せると今から楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は紛失した場合の責任問題もあり、原則所持していない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は各々電話されたり、わからない時は一緒にしたり、その他の方は事務所の電話でお話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員各自が気付いた点で配慮し、工夫を凝らして実施している。	居間・食堂等の共用部分は明るく落ち着いた清潔な空間となっている。壁面にはタペストリーや折り紙を使った季節の作品が飾られ、生け花を思わせる造花を置くなど上品で高級な空間を演出している。除菌脱臭機器が各所に設置され、事業所の利用者や職員に対する健康保持や感染症予防への強い姿勢が窺われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりになりたい時など居室に出入りすることは自由にしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真など広さの許す限り自由に置いてもらっている。	居室の表札部分には、願いを描いた絵馬や節分の鬼など季節の小物が飾られ、自分の部屋が一目で分かる工夫がなされている。居室内は、ベッド・エアコン・クローゼットや照明等があらかじめ設置され、利用者は馴染みの家具や小物を実家から持ち込み自分の部屋を創っている。中には、亡き夫の遺影や位牌を置いた部屋も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が良く分かるように目立つように工夫している。		